



更生保護功績 保護司
佐藤守一さん

さとう・もりいち 74
室根町津谷川



地区の推薦を受けて1996年に保護司を拝命。20年余りにわたり、犯罪や非行に陥った人の更生を支援してきました。2016年から一関地区保護司会長、県連合会理事に就任。保護司の定年を来年に控えます。若い対象者を多く受け持ち、考え方の違いに悩んだことも。定期的に自宅や刑務所に足を運び、対象者を励ましながら更生に導きました。「犯罪に至った経緯はそれぞれ違う。真摯に本音と向き合った」と話し「更生して結婚し、子供が生まれたと報告をもらったこともある。頑張っていることがわかるとうれしい」と取り組みの原動力を教えてくださいました。

危険業務従事者叙勲

政府は昨年10月7日、第29回危険業務従事者叙勲受章者を発表しました。非常に危険性の高い業務に精励した人に勲章が授与されました。



防衛功労 元准海尉
千葉博明さん

ちば・ひろあき 67
大東町大原



1970年に海上自衛隊に入隊。2004年に准海尉で退官するまでの間、厚木航空基地、護衛艦「ひえい」や硫黄島航空基地などで航空機の消防、車両関係や基地警備の任務に当たりました。1983年の三宅島の噴火時には住民の救出に出動。「噴火によって流れ落ちる溶岩や、大量に降り注ぐ火山灰を間近で見た」と当時を静かに振り返りました。業務で家を留守にすることが多く、離島勤務時は3カ月に一度しか帰宅できませんでした。受章について「家内には特に感謝している」と話していました。



消防功労 元千厩町消防団副団長
岩淵敏雄さん

いわぶち・としお 84
千厩町奥玉



1956年に旧千厩町消防団に入団。88年から4年間、副団長を務め、現場で消火や救助活動に力を尽くしました。81年には各地区の子供会を対象とした「少年消防クラブ」を8つ結成させました。以来、千厩地域では親子と一緒に防火活動を行っています。また、防火水槽の周辺を草刈りして、団員に位置を把握させたり、冬季は凍結防止の作業を行ったりして火災に備えました。受章について「先輩、同僚、後輩の皆さんのおかげ。家族の支えがあったからこそ受章」と感謝しています。



消防功労 元市消防団分団長
沼倉初雄さん

ぬまくら・はつお 74
萩荘



1966年に旧一関市消防団に入り、2003年から退団する13年まで分団長を務めました。「現場では団員が円滑に行動できるように指揮を執ることが大切」とし、分団長として刻一刻と変化する災害現場の状況を見極め、冷静な判断で団員たちに指示を出し、被害の拡大を防ぎました。また、自分の地域から火災は出さないという強い信念のもと、自主防災会や婦人消防協力隊と連携しながら、地区内の火災予防活動などにも力を尽くしました。



消防功労 元東山町消防団分団長
那須正治さん

なす・しょうじ 79
東山町長坂



1959年に旧東山町消防団に入り、1989年から退団する2001年まで分団長を務めました。災害現場では自ら率先して災害に立ち向かいました。「地元の主要産業が葉タバコだったことから農家の乾燥室からの出火が多かった。山中の行方不明者の捜索にも数多く出動した」と当時を振り返ります。地域住民から信頼され愛される消防団であることを念頭に置きながら、団員の指導に当たりました。また、防火水槽の必要な箇所なども率先して提案するなど、地域の施設整備の充実にも尽力しました。



看護業務功労 元県立江刺病院総看護婦長
千葉由香子さん

ちば・ゆかこ 78
関が丘



1960年から38年余り、看護師として地域医療の充実に尽力しました。初任地の県立磐井病院では、内科や外科などで患者に寄り添う看護を実践。その後、軽米、花泉、大東、江刺で総看護婦長を歴任しました。「忙しく、無我夢中で駆け抜けてきた感があります。あっという間の38年余りでした。多くの人に支えられ、患者さんに学ぶことも多々ありました」と振り返ります。今後は地域との交流を大切に、周りとの助け合い、いたわりながら暮らしたいと話してくれました。



消防功労 元市消防団副団長
佐々木守美さん

ささき・もりみ 72
巖美町



1965年に旧一関市消防団に入り、2009年から退団する13年まで副団長を務めました。岩手・宮城内陸地震では、磐井川上流に土砂ダムが発生。新しい水路ができるまでの32日間、団員が24時間態勢で警戒するための指揮に当たりました。分団長として部下団員をまとめ、迂回路の確保や広報活動に当たりました。「予断を許さない事態が続いたが、みんなで励まし合って乗り切った」と当時を振り返ります。規律訓練を機会があるごとに行うなど、後進の育成にも尽力しました。



生活衛生功労 元県料理業生活衛生同業組合理事長
細川正二さん

ほそかわ・しょうじ 76
上大槻街



2009年から5年間、県料理業生活衛生同業組合理事長として、食の安全・安心や日本食のユネスコ登録推進活動などに携わりました。任期中は、大船渡市や大槌町で東日本大震災の被災者に炊き出しを実施。「ミニウナギ丼を喜んでくれた避難者の顔が印象に残っている」と当時を振り返りました。割烹・和風レストラン「松竹」の店主でもある細川さん。「組合員の支えと、店を任せられる家族、従業員がいたからこそ活動できた」と感謝。「褒章は組合が受けたも同然だと思っている」と笑顔を見せました。



消防功労 元市消防団副団長
菅原彦一さん

すがわら・ひこいち 84
大東町猿沢



1970年、旧大東町消防団に入団した菅原さん。2006年に退団するまで35年6カ月にわたって地域の防災に務めました。地域内の巡回では、警鐘だけでなく、消防車のマイクを通じ、肉声で火災予防を訴えました。また、分団長時代に起きた林野火災では、水源の乏しい山中だったことから、遠方の沢からの中継送水を指示。最小限の被害で鎮火させました。受章にあたって「消防の仲間たちのおかげ」と笑顔ののぞかせ、「家族の協力があったのこと」と深く感謝していました。



地方自治功労 元東山町収入役
高橋鎮一さん

たかはし・しんいち 80
東山町松川



1961年から東山町職員として勤務し、退職後、91年12月から2003年9月まで3期12年にわたって収入役を務めました。町の会計運営をつかさどり、町勢の伸展に寄与しました。当時はまだ電卓がいき渡っておらず、計算は主にそろばんでした。「苦痛とは思わなかったが、何よりお金を預かる身。間違いがあってはいけない」と適切な執行を心掛けたといいます。受章について「とても名誉なこと。これからも一生懸命精進していきたい」と話していました。